

明治

空冷式

エアコンプレッサ

取扱説明書

形式 N-5B・N-10A

H-5B・H-10A



当製品を安全に、また正しくお使いいただく
ために必ず本取扱説明書をお読みください。
お読みになった後も必ず保存してください。

株式会社 明治機械製作所

压力换算表

kgf/cm ²	MPa
0.2	0.02
2	0.20
3	0.29
4	0.39
5	0.49
5.5	0.54
6	0.59
7	0.69
7.7	0.76
8	0.78
8.5	0.83
9	0.88
9.3	0.91
10	0.98
11	1.08
12	1.18
14	1.37
15	1.47
17	1.67
20	1.96
22	2.16
25	2.45
27.5	2.70
30	2.94
45	4.41
48	4.70
50	4.90

この度は、明治の空冷式エアコンプレッサをお買い上げいただき、ありがとうございます。

はじめに

- この取扱説明書は、空冷式エアコンプレッサの取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。
ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ正しくお取扱いただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も、必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与又は譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡ししてください。
- この取扱説明書を紛失又は損傷された場合、また警告ラベルが破損・剝離・退色して見えにくくなったら速やかに当社又は当社の特約店・販売店にご注文ください。
- 尚、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容及び写真・イラストなどの一部が本製品と一致しない場合がありますので、ご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買上げまたお近くの特約店・販売店にお問合せください。

-  印付きの下記マークは、安全上特に重要な項目ですので、必ずお守りください。



危険

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険性が極めて大きいことを示します。



警告

適切な事前注意を払わなかった場合に、死亡や重大な傷害が生じる危険が存在することを示します。



注意

安全な取扱に対する助言、あるいは適切な事前注意を払わなかった場合に、傷害または製品の重大な破損に至る可能性があることを示します。

目 次

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと	2
-----------------------------	---

設置にあたっての注意事項	4
--------------	---

各部の名称とその働き	5
------------	---

お使いになる前に	9
----------	---

運 転 の し か た	11
1. 始動……………11	2. 停止……………12
3. 停電したときは…13	

定期の点検・調整について	14
1. エアクリーナ…………14	2. Vベルト……………14
3. アンローダパイロット弁……………15	
4. 圧力スイッチ…………15	5. 安全弁……………16

定 期 点 検 基 準 表	17
---------------	----

不 調 診 断	18
---------	----

仕 様	20
-----	----

サービスと保証について	21
-------------	----

安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと



- 屋外など、第三者（子供・一般の人々）が立ちいる場所で使用する時、監督者が注意を払えない場合には、代行者を置くか、防護柵を設けるか安全上必要な処置を行ってください。
- 本機で圧縮した圧縮空気は、人の呼吸用や人体には使用できません。
呼吸用・人体に使用すると呼吸困難・呼吸障害をおこし、死亡の原因となります。
- 運転中・運転直後は、コンプレッサのシリンダ・シリンダカバー・接続管は高温になっていますので、手など触れないでください。
手など触れますとやけどの原因となります。
- ベルトガードを外して運転しないでください。
回転部に、手や衣服が巻き込まれて非常に危険です。
- 運転中はプーリ・Vベルトに手指等を、近づけないでください。
回転部に巻き込まれると重大な事故を起こす危険性があります。
- 引火性のあるガス・爆発性の可燃物（アセチレン・プロパン・シンナー・ガソリン・塗料等）のない場所に設置してください。
もし使用して事故が発生すると、人身・建造物に重大な損害を与えます。
- 点検整備する時は、必ず電源を「切」にし、「整備中」であることを明らかにして、空気タンクの圧力をゼロにするため空気弁又はドレンを開けてください。
本機を清掃・点検・整備をする時は、必ず電源を「切」にして、「整備中」であることを明らかにして作業にはいってください。回転部に、手や衣服が巻き込まれたり、感電の恐れがあり大変危険です。又、圧力があるにもかかわらず、圧力計などの加圧部を交換しようとするとその部品が飛び、ケガ・建造物の破損の可能性があります。



注意

●作業前・作業後に必ず点検を！

本機を使用する前に必ず始業点検を行ない、異常個所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかチェックして下さい。

●運転場所は、清潔で室内温度が40℃以上にならないところに

本機を運転した時に室内温度が40℃以上になる所は避け、地盤が平坦で、清潔な空気が吸入できるよう壁より30cm以上離し風通しの良い場所で運転してください。コンプレッサ本体モータの損傷の原因となります。又、輸送時の台木は外して運転してください。

●湿気が少なく、雨などの水滴のかからない場所で運転して下さい。

錆の発生は勿論、潤滑油の劣化・モータのショート・感電の恐れがあります。

●コンプレッサを運転中、停電があったら必ず電気を切って圧縮空気を放出して空気タンクの圧力をゼロにして下さい。

モータ損傷の原因となります。

設置にあたっての注意事項

騒音規制法、振動規制法による届出について

- 騒音規制法及び振動規制法により指定地域内（指定区域内は各市町村により指定されている）における工場または事業所に特定施設（コンプレッサの原動機出力が7.5kW以上のもの）を設置する場合、届出が必要です。
（台座が固定しているもの）

届 出

1. 工事開始前30日までに工事所在地の市町村役場の公害担当窓口に出しなければなりません。
2. コンプレッサの台数、騒音防止の方法と変更を行う場合に届出が必要です。
3. 用紙の請求及び問合わせは市町村役場の公害担当窓口にいらしてください。

■第二種圧力容器の自主点検記録について

本製品の空気タンクは第二種圧力容器に該当しますので必ず次のことを守ってください。

1. 安全弁は、最高使用圧力以下で作動するように調整しておくこと。
2. 圧力計の目盛りは、最高使用圧力を示す部位に見やすいように赤で表示しておくこと。
3. 毎年1回以上次の事項について定期自主点検を行ってその結果を記録し、3年保存しておくこと。
 - 1) 本体の損傷の有無
 - 2) ふたの締付ボルトの摩耗の有無
 - 3) 管及び弁の損傷の有無

第二種圧力容器自主検査点検記録

書式例

検査年月日 年 月 日		検査者氏名				事業者印
検査項目及び点検事項		状 態 異 常				状 態 と 措 置
		良	否	有	無	
本体の損傷	1. 胴・鏡板					
	2. 安全弁					
	3. 圧力計					
ふたの締付ボルトの摩耗						
管 及 び 弁 の 損 傷						

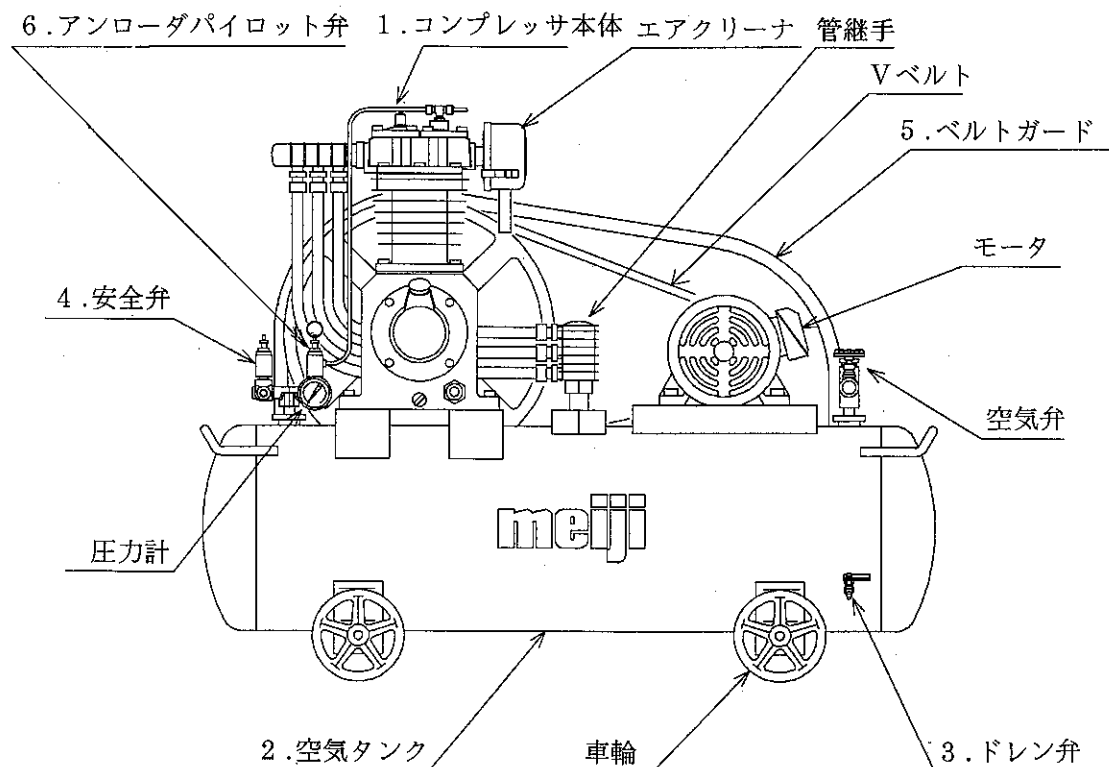
前記の各項は「労働安全衛生法」に定められており、違反のないよう十分ご注意下さるようお願い致します。

各部の名称とそのはたらき

■N形（アンローダ形コンプレッサ）

圧力が0.69MPaまで上昇すると圧縮運転をやめ、0.59MPaまで圧力が下がると、自動的に圧縮状態に切り替わります。

電源を切らない限り、モータは回転し続けているコンプレッサです。



1. NO形 コンプレッサ本体

圧縮空気を製造する本体です。

2. 空気タンク

コンプレッサ本体で製造された圧縮空気を貯蓄する容器です。

3. ドレン弁

空気タンク内に溜まった、水・油・錆等を排出させる弁です。

4. 安全弁

空気タンクの圧力が規定圧力0.76MPaになると作動してモータの損傷、空気タンクの破裂を防止する安全装置です。

5. ベルトガード

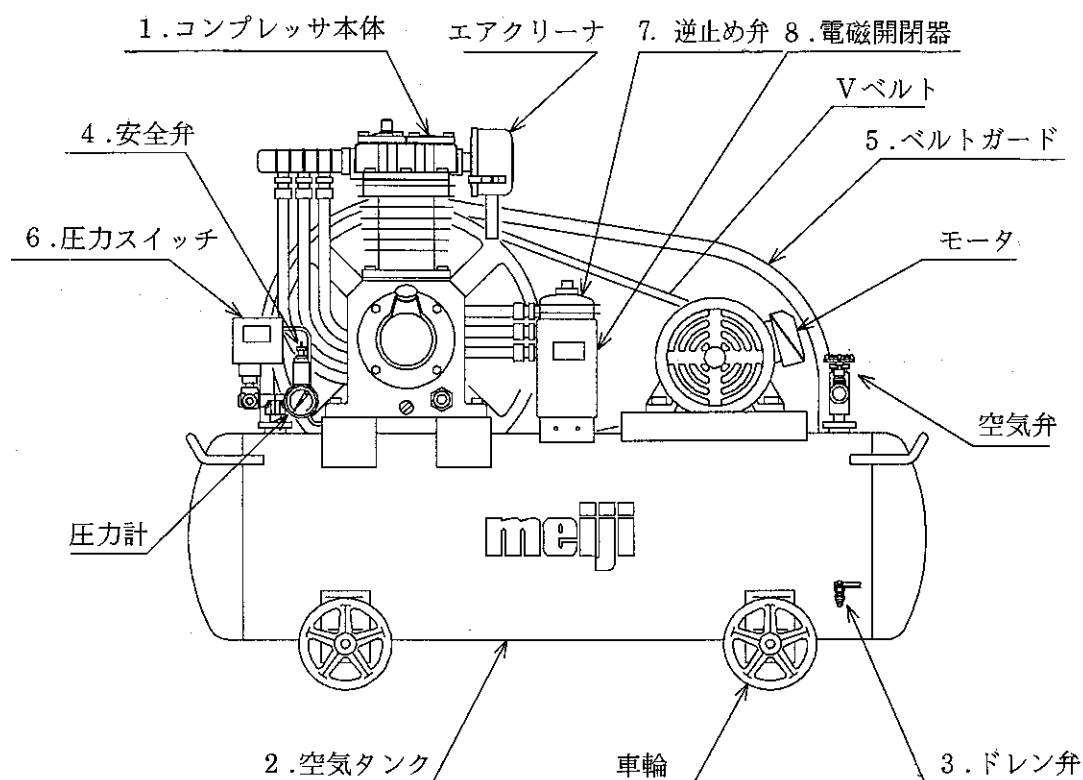
プーリやVベルト等の回転部を、保護し衣服のまきこみによるけが等を防止します。

6. UP-7Bアンローダパイロット弁

空気タンク圧力が0.69MPaまで上昇すると、自動的に圧縮運転をやめ、0.59MPaまで圧力が下がると圧縮運転に切りかえる装置です。

■H形（圧力スイッチ形コンプレッサ）

圧力が0.98MPaまで上昇するとモータが自動的に停止し、0.78MPaまで下がると自動的にモータが回転し圧縮運転を始めるコンプレッサです。



1～5はN形コンプレッサを参照してください。

6. 圧力スイッチ

空気タンク圧力が0.98MPaまで上昇すると、自動的にモータの運転を停止させ、0.78MPaまで圧力が下がると自動的にモータの運転をさせる装置です。

7. 逆止め弁

圧力スイッチが働いてモータが停止し、次にモータが運転されるとき運転しやすくする装置です。

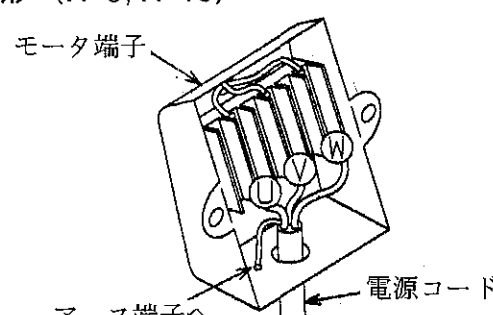
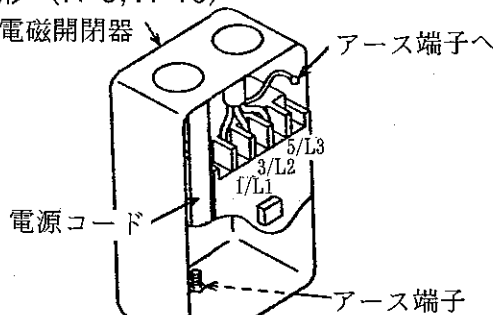
また、空気タンクの圧縮空気の逆流を止めます。

8. 電磁開閉器

過電流が流れるのを防止し、モータを損傷から守る装置です。

お使いになる前に

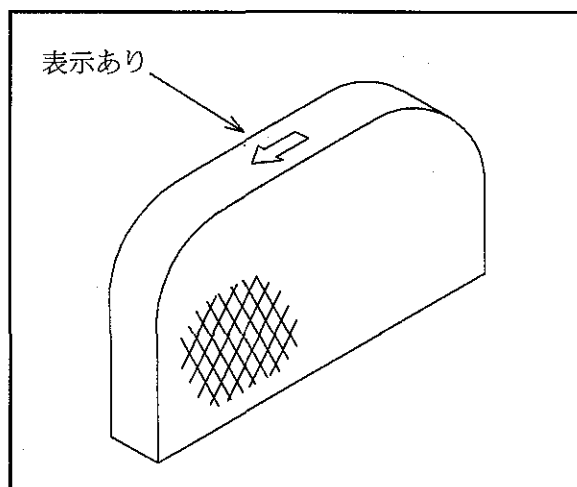
●モータ又は電磁開閉器に電源コードを配線して下さい。

N形 (N-5, N-10)  モータ端子 アース端子へ 電源コード	H形 (H-5, H-10)  電磁開閉器 アース端子へ 電源コード アース端子
・モータの端子カバーを外して下さい。 ・次にU, V, Wに電源コードを接続して下さい。	・電磁開閉器のカバーを外して下さい。 ・次に1/L1, 3/L2, 5/L3に電源コードを接続して下さい。

電源コード4芯を使用し、感電防止のためアースを必ずとって下さい。

モータの配線後、回転方向を確認してください。ベルトガード側から見て左回転です。

逆回転した場合は、電源コード3本のうち2本を入れ換えてください。そのまま逆回転で使用しますとコンプレッサの焼付の原因となります。



配線長さ30m以内

	コード太さ (mm ²)	ヒューズ容量 (A)	電源スイッチ容量 (A)
N-5,H-5	3.5	30	30
N-10,H-10	8	75	100

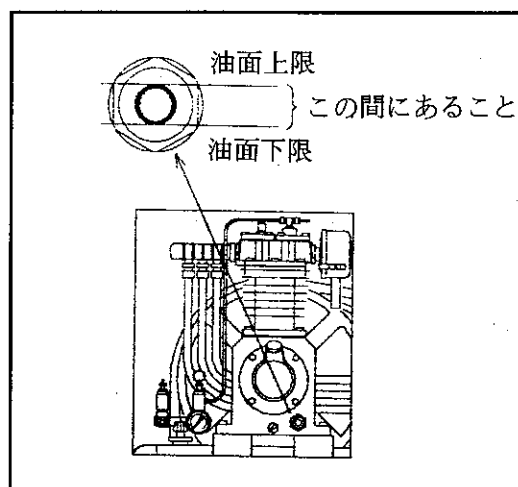


上記に示されている以外の細いコードを使用されますと、モータの損傷の原因となります。また、コードが発火し家屋等の火事になる原因にもなります。

電気事情の悪い場所、配線が長くなる場合は、お買い求めになった販売店にご相談下さい。

●潤滑油は作業前、作業後に必ず点検を

潤滑油は作業前、作業後に必ず点検を行ない、油面計の赤丸の間にあるように補給又は交換して下さい。



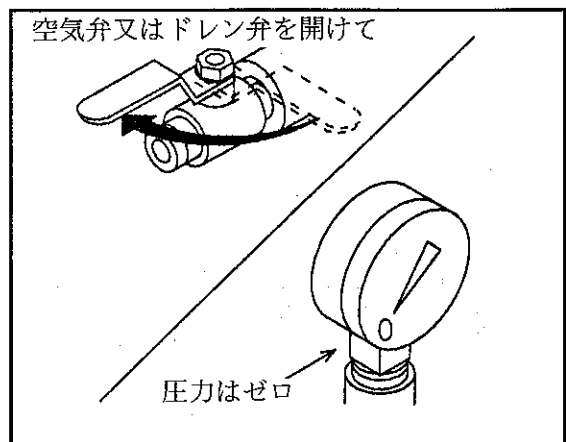
明治純正の潤滑油又は指定潤滑油を使用してください。それ以外の潤滑油を使用されますとカーボンの蓄積やオイルアップの原因となります。

明治純正コンプレッサオイル CS-68

運転のしかた

1. 運 転

- (1) 空気タンクの圧力をゼロにするため
空気弁又はドレン弁を開けて下さい。
(H-20は全自動形ですので、圧力を
ゼロにする必要はありません。)
- (2) 電源スイッチをいれてコンプレッ
サを始動させてください。
- (3) コンプレッサの暖機運転を十分行な
った後、空気弁又はドレン弁を閉じ
て空気タンクの圧力を上げてくださ
い。



- (4) 圧力が徐々に上がり

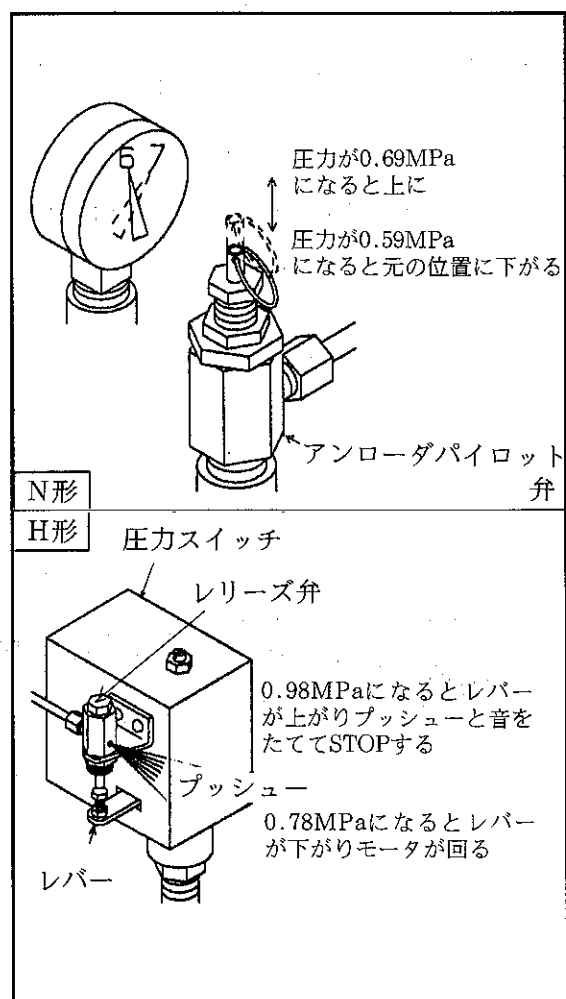
N形は0.69MPaになるとアンロー
ダパイロット弁が自動的に作動し、
圧縮運転をやめます。

それでも依然として、モータは回転
しています。0.59MPaまで圧力が
下がると自動的に圧縮運転に切り換
わります。

H形は0.98MPaになると圧力スイッ
チが自動的に作動しモータが停止し
ます。

0.78MPaまで圧力が下がると自動
的に圧力スイッチが作動し、圧縮運
転を始めます。

正常に作動することを確認した後、
作業を始めてください。





危険

安全弁は必ず規定圧力内で吹き出すよう定期点検を怠らないで下さい。

【N形－0.76MPa H形－1.08MPa】モータの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり重大なケガ・死亡の原因となります。

(調整方法はP16を参照してください。)



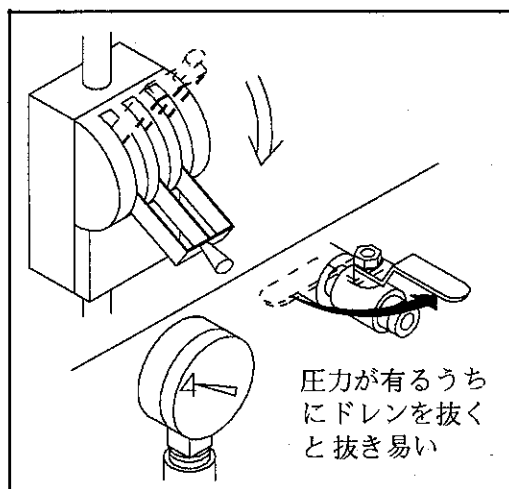
注意

アンローダパイロット弁が0.69MPaになっても作動しない、それ以上に圧力が上昇する。また、圧力スイッチが作動せず0.98MPaになってもモータが停止しない。このような場合は、0.69,0.98MPa以下で作動するように調整してください。モータの損傷の原因となります。

(調整方法はP15を参照してください。)

2. 停止

- (1)電源スイッチを切ってください。
- (2)空気タンクの圧力がゼロにならないうちに、ドレン弁を開放してドレンと圧縮空気を排出してください。



警告

- ドレン弁を開ける時は、まわりに人がいない事を確認し、徐々に開けてください。
急に開けるとドレンがいきに出て危険です。
- ドレン弁を開けてドレンを排出中はドレン弁の前に手を出さないでください。
異物(錆び等)が飛び出しけがをすることがあります。

空気タンクに圧力があるとき電源スイッチのいれかた

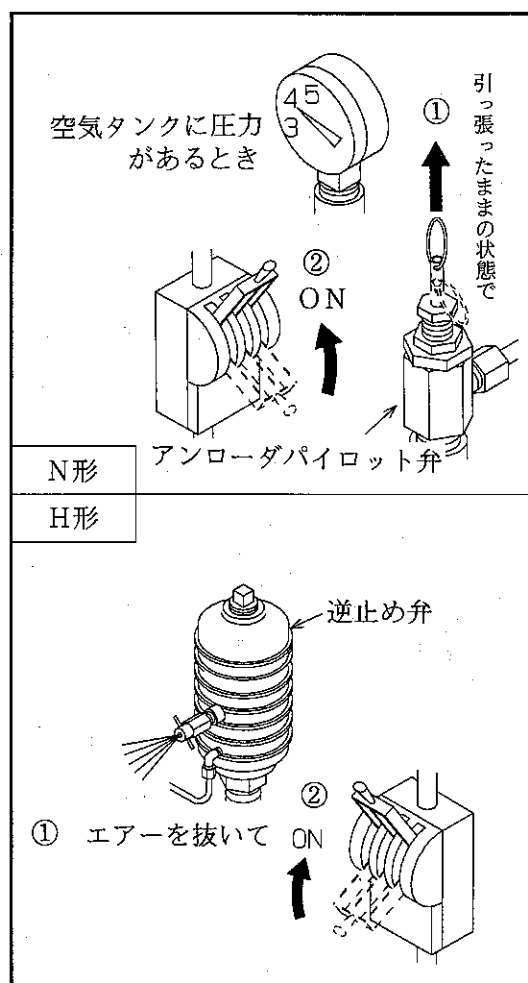
停電したときは

電源を切る・空気タンクの圧力をゼロにすることを励行してください。

やむ得ず、圧力があるうちに電源をいれたいときは、次の要領でおこなってください。これを怠るとモータ損傷の原因になります。

N形はアンローダパイロット弁のリング

を引き上げて、モータが回り始めたらリングを離してください。



H形は逆止め弁に取り付けてあるレリーフ

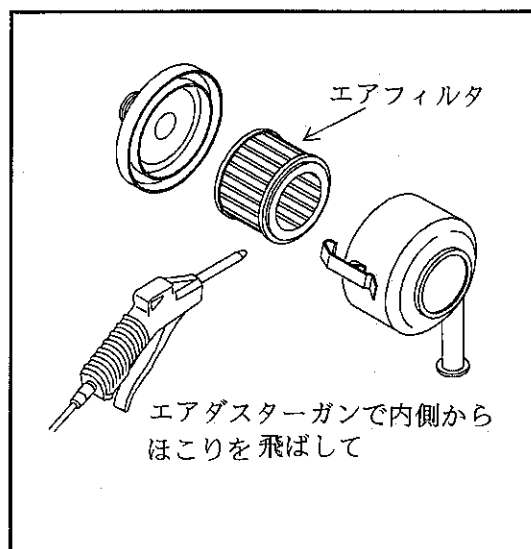
バルブを開放して、逆止弁内の圧縮空気を抜いてください。

定期の点検・調整について

1. エアクリーナ

エアクリーナは、一定の空気量を吐き出させるために、エアフィルタを常に清潔な状態に保ってください。

軽くたたく又は、圧縮空気ではこりを飛ばして、エアフィルタを清潔にしてください。きれいにならないときは交換してください。



警告

エアダスターガンを使用して清掃する時は、保護眼鏡を使用してください。

使用しないと目にゴミなどが入る事があります。

エアダスターガンは人に向けないでください。怪我をする事があります。

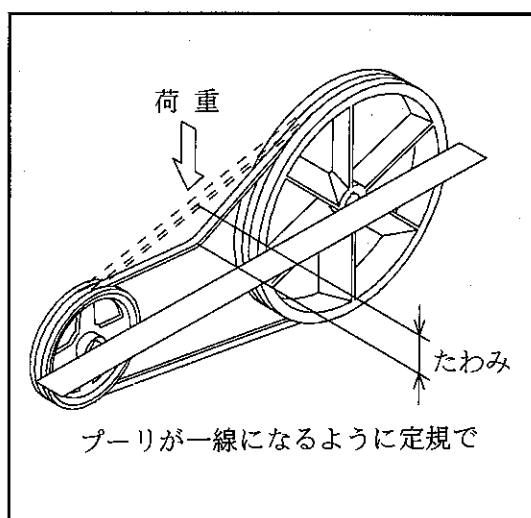


注意

エアフィルタを清潔にしないで運転を続けていると、オイルアップが激しくなり、コンプレッサの損傷の原因となります。

2. Vベルト

Vベルトの張りがゆるいと、Vベルトがスリップしてコンプレッサの性能が十分に発揮させることができません。また、Vベルトの寿命も短くなり振動の原因になります。あまり強く張りすぎないようにVベルトを張ってください。



B ベ ル ト	機 種	たわみ荷重(N)		たわみ量 (mm)
		新 品 ベ ル ト	張 り 直 し	
	N-5B・H-5B N-10A・H-10A	25.0～30.0	25.0	10

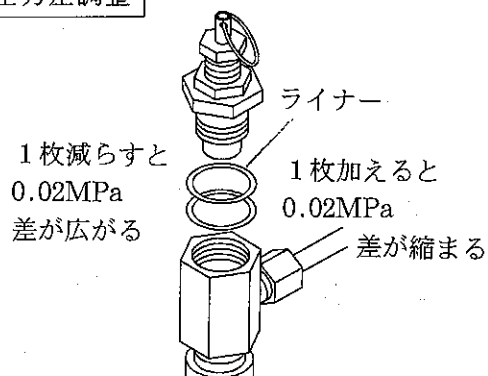
3. アンローダパイロット弁

圧力を一定の範囲で保つ弁です。

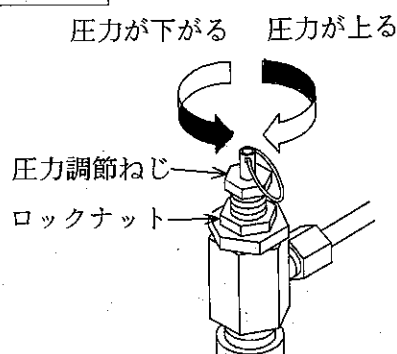
0.69MPaで圧力上昇が停止し、0.59MPaに下がると圧力上昇を始める。この繰り返し運転ができず0.1MPaの圧力差がないときは、ライナーを抜いてください。逆に0.1MPa以上圧力差があるときはライナーを加えてください。

0.69MPaになっても圧力上昇が停止しないときは、ロックナットを緩めて圧力調節ねじを左に回して圧力を下げてください。

圧力差調整



圧力調整



注意

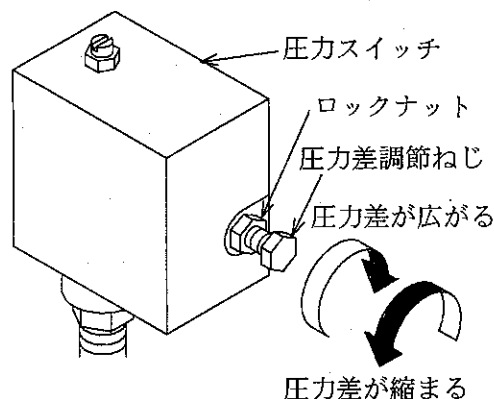
0.69MPa以上で運転しないでください。
モータの損傷の原因となります。

4. 圧力スイッチ

圧力を一定の範囲で保ち、モータを自動発停させるスイッチです。

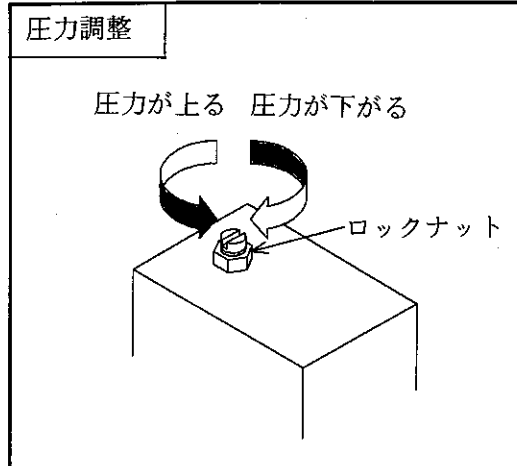
0.98MPaでモータが停止し、0.78MPaでモータが回転し圧縮運転を始めます。この繰り返し運転ができず、0.2MPaの圧力差がないとき、また0.2MPa以上あるときはロックナットを圧力調節ねじを調整してください。

圧力差調整



0.98MPaになってもモータが停止しないときは、圧力調節ねじをロックナットを緩めて右に回してください。

0.98MPa以下で停止するときは、左に回してして下さい。



注意

0.98MPa以上で運転しないでください。
モータの損傷の原因となります。

5. 安全弁

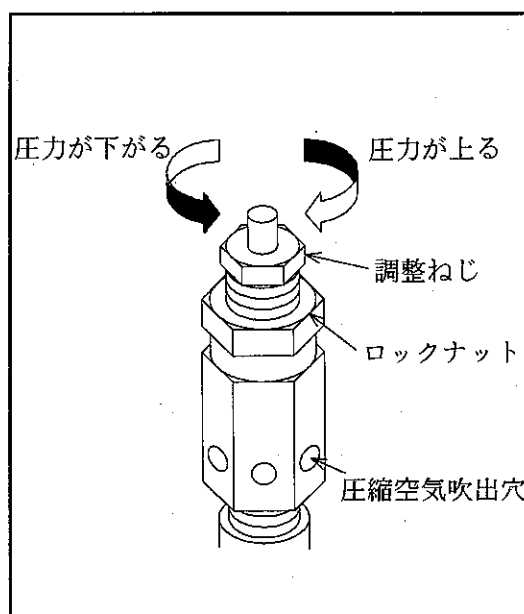
安全弁はコンプレッサ・モータの損傷、空気タンクの破裂から守る大切な安全装置です。

N形ですと0.76MPa

H形ですと1.08MPa 以上にならないと

吹き出さないときは、ロックナットを緩めて調整ねじで圧力を下げてください。

それでも調整できないときは、圧力をゼロにして分解掃除又は、交換してください。



危険

安全弁は必ず、規定圧力内で吹き出すように調整してください。

モータの損傷だけでなく、空気タンクの破裂につながり、重大なケガ・死亡の原因につながります。

定期点検基準表

1. コンプレッサの性能・寿命を維持し、長時間良好な状態で運転するには保守点検を充分に行うことが必要です。
2. 点検時期はコンプレッサの使用状況、取扱い方法などにより異なり、一概には決めにくいものですが、一応の目安として下表に示します。
使用時間、運転時間のいずれか一方を点検時期の計算値として御考慮ください。
3. 空気タンクが第二種圧力容器に該当するコンプレッサを使用される方は、1年以内ごと1回、自主検査を行いその記録を3年間保存してください。

点 検 個 所	点 検 事 項	使用期間 運転時間			毎 日	半月ごと	1ヵ月ごと	2ヵ月ごと	3ヵ月ごと	6ヵ月ごと	1年ごと	2年ごと	備 考
		使用前	使用中	使用后		100時間 ごと	200時間 ごと	400時間 ごと	600時間 ごと	1200時間 ごと	2400時間 ごと	4800時間 ごと	
油 面 計	油量点検・補給	○											中性洗剤で洗って下さい。
異常音・異常振動	点 検	○											
空 気 タ ン ク	ドレン抜き			○									
空 気 タ ン ク	清 掃										○		
吸 込 ろ 過 器	清 掃						○						
V ベ ル ト	張力点検・張り調整					(第1回目)	●			(第2回目)	○	▲	
潤 滑 油	全 量 交 換					(第1回目)	●	(第2回目)	●	(第3回目以降)	○		
ボルト・ナット	ゆるみ点検・増締め						(第1回目)	●			(第2回目以降)	○	
吸込弁・吐出し弁	清掃・カーボン除去								○		▲		
アンローダパイロット弁	作 動 確 認	○											
	分 解 ・ 清 掃									○			
圧力スイッチ	作 動 確 認	○											
安 全 弁	作 動 確 認									○			
空 気 洩 れ	点 検	○											
ベ ル ト 車	ゆるみ点検						○						
モータプーリ	ゆるみ点検						○						
圧 力 計	点 検 ・ 矯 正										○		油消費量の増加および異常な効率の低下がなければ延長しても差しつかえありません。
空気圧縮機全体	分解・清掃・整備										○		
シリンダ内径	摩耗量点検											○	
ピ 外 径	摩耗量点検											○	
ス 圧力リング	摩耗量点検											○	
オイルリング	摩耗量点検											○	
ン ピン外径	摩耗量点検											○	
クランク軸ピン外径	摩耗量点検											○	

表中 ●印は、初めて運転する場合に限ります。
▲印は、部品の交換時期です。

不調診断

状 況	原 因	処 置
異常音の発生 (シリンダ周囲)	吸込・吐出し弁の押えボルトのゆるみ	押えボルトを締め付ける
	吸込・吐出し弁の破損	取り換える
	ピストンとヘッド間に異物混入	異物除去・清掃
	ピストン又はシリンダの摩耗で間隙大	取り換える
異常音の発生 (クランク室周囲)	クランク軸ピン摩耗	取り換える
	クランクピンブシュ摩耗	取り換える
	クランク軸の軸方向ガタの大又は小	適正なガタに直す(0.1~0.5mm)
	ベアリングに異物混入又は摩耗	清掃・取り換える
	フライホイールプーリのボルト又はナットのゆるみ	締め付ける
異 常 振 動	フライホイールプーリのボルト又はナットのゆるみ	締め付ける
	ベアリングの摩耗	取り換える
	基本ボルト・ナットのゆるみ	締め付ける
	各締め付けボルト・ナットのゆるみ	締め付ける
吐出し空気の 異 常 高 温	吐出し弁の損傷	取り換える
	吐出し弁にカーボン付着	清掃・取り換える
吐出し圧力の 異 常 降 下	吸込・吐出し弁の漏えい又は損傷	取り換える
	各締め付け部分からの漏えい	締め付ける
	安全弁からの空気洩れ	すり合わせ・取り換える
	ヘッドガasketの破損	取り換える
	アンロードパイロット弁の弁部密着不完全	清掃・すり合わせ
	アンロードパイロット弁の調整不良	スプリングの調整
	空気タンク・パイプ・ねじ部の空気洩れ	締め付ける
	ブローパイ 大	取り換える
	吸込・吐出し弁に異物付着	清掃
	吸込・吐出し弁破損	取り換える
	Vベルトのゆるみ(スリップ)	適正な張りに直す
空気圧が上らない 上りが遅い	各締め付け部からの空気の洩れ	締め付ける
	弁の摩耗又は破損	取り換える
	空気の使用量が多すぎる	圧縮機の増設・大形と交換
	圧力計のくるい	取り換える

状 況	原 因	処 理
油 消 費 量 の 増 大	クランク室からの油洩れ	ガスケット交換・ボルトナットの締め付け
	ピストンリングを上下逆に組んだ場合	刻印側を上向きにする
	ピストンリングの摩耗	分解清掃・取り換える
	ピストンの摩耗	分解清掃・取り換える
	シリンダの摩耗	オーバーホール・部品交換
運 転 中 の 急 停 止	潤滑油不足による焼き付き	油量確認・部品交換
		指定油に交換する
	モータ故障	モータ点検
	一定圧力以上に圧力が上昇したとき	アンロードパイロット弁の点検
	ヒューズが切れたとき	取り換える
	部品の破損	部品交換
電 流 異 常	焼き付き	油量確認・部品交換
		指定油の使用・確認
	Vベルトのゆるみ（スリップ）	適正な張りに直す
		(注)フライホイールプーリとモータプーリは平行にする
	潤滑油に不純物混入	潤滑油交換
	フライホイールプーリのボルト・ナットのゆるみ	締め付ける
モ ー タ 故 障 (停 止)	アンロード圧力調整不良で圧力過上昇	圧力調整
	配線及び結線不良	規定配線・結線をする
	電圧低下	トランス取り付け
	過負荷運転	適正な圧力に調整
	ベルトの張り過ぎ	適正な張りに調整

仕 様

■アンローダ式コンプレッサ本体仕様（形式N形）

形 式	出 力	シリンダ数×シリンダ径×行程	クランク室内 の上限油量	作動圧力	質 量
	kW	Cyl m m	L	MPa	kg
NO-7A	3.7	2 × 90 × 108	1.5	0.59~0.69	89
NO-15	7.5	4 × 90 × 100	2.2		126

■圧力スイッチ式コンプレッサ本体仕様（形式H形）

形 式	出力	シリンダ数×シリンダ径×行程	クランク室内 の上限油量	作動圧力	質 量
	kW	Cyl m m	L	MPa	kg
HO-7A	3.7	2 × 90 × 108	1.5	0.78~0.98	89
HO-15	7.5	4 × 90 × 100	2.2		126

■空冷コンプレッサ仕様

概略寸法

形 式	出 力	空気圧縮機 本体形式	作動圧力	回転 速度	吐出し 空気量	タンク 全容積	空 気 取出口	長さ×巾×高さ	質 量 モータ付
	kW		MPa	min ⁻¹	L/min	L	B	mm	kg
N-5B	3.7	NO-7A	0.59~0.69	500	500	137	1/4B×1	1361×540×1062	242
N-10A	7.5	NO-15		600	1080	254	3/4×1	1620×600×1095	370

この仕様は予告なしに変更することがあります。

サービスと保証について

●保証について

コンプレッサの無償サービス期間は、本機を出荷した時点から12ヶ月又は2400時間です。

ただし、期間中でも需要家側の取扱上の過失や、故意に起こした事故、故障については保証いたしません。

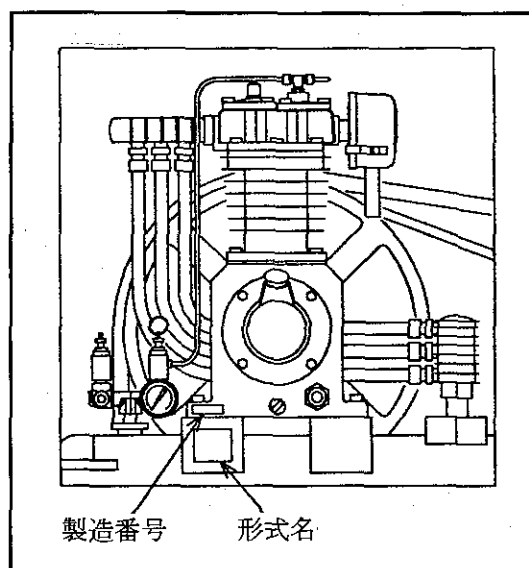
また、消耗品や交換の必要な部品は明治純正部品をお使いください。純正部品以外のものを使用して故障した場合、クレームの対象にならないことがあります。

●アフターサービスについて

機械の調子の悪いときに点検・処置しても、なお不具合があるとき・不審な点及びサービスに関しては、特約店・販売店又は当社営業所にお問合わせください。

連絡していただきたい内容

- ・形式 ・製造番号
- ・故障内容（できるだけ詳しく）



お客様メモ

下記に御記入し、ご活用下さい。

形 式	
製 造 番 号	
耐 圧 番 号	
ご 購 入 年 月 日	年 月 日
ご使用開始年月日	年 月 日
ご 購 入 先	TEL

営業品目

- | | | |
|--------------|--------------------|-------------|
| ★小型往復空気圧縮機 | ★パッケージコンプレッサ | ★エンジンコンプレッサ |
| ★スクリュウコンプレッサ | ★オイルフリースクロールコンプレッサ | |
| ★スプレーガン | ★付属空気機器 | ★自動塗装装置 |
| ★塗装排気装置 | ★乾燥炉 | |

事業所一覧

- | | | |
|-------------|-----------|--|
| ・ 本 社 | 〒532-0027 | 大阪市淀川区田川2丁目3番14号
TEL.06 (6309) 1222 FAX.06 (6308) 7047 |
| ・ 大 阪 支 店 | 〒532-0027 | 大阪市淀川区田川2丁目3番14号
TEL.06 (6309) 8151 FAX.06 (6309) 8157 |
| ・ 東 京 支 店 | 〒135-0042 | 東京都江東区木場2丁目5番7号 KHビル内5階
TEL.03 (3642) 0701 FAX.03 (3642) 3200 |
| ・ 名 古 屋 支 店 | 〒468-0045 | 名古屋市天白区野並2丁目345番地
TEL.052 (896) 1921 FAX.052 (896) 6831 |
| ・ 岡 山 支 店 | 〒703-8214 | 岡山市鉄160番地
TEL.086 (279) 2853 FAX.086 (279) 6460 |
| ・ 福 岡 支 店 | 〒816-0921 | 福岡県大野城市仲畑2丁目6番44号
TEL.092 (587) 1247 FAX.092 (502) 6129 |
| ・ 北関東営業所 | 〒376-0013 | 群馬県桐生市広沢町2丁目3064番地の1
TEL.0277 (52) 3351 FAX.0277 (52) 7880 |
| ・ 静岡出張所 | 〒422-8034 | 静岡県静岡市高松1828-4
TEL.054 (236) 5688 FAX.054 (237) 6639 |
| ・ 金沢出張所 | 〒920-0062 | 金沢市割出町646 百山ビル内
TEL.076 (238) 6201 FAX.076 (238) 9662 |
| ・ 高松事務所 | 〒761-8083 | 高松市三名町656-2 宮脇書店 三名ビル201号
TEL.087 (815) 7820 FAX.087 (815) 7825 |
| ・ 広島事務所 | 〒731-0137 | 広島市安佐南区山本1-9-6 サンロード101号
TEL.082 (832) 2258 FAX.082 (832) 2289 |
| ・ 岡 山 工 場 | 〒703-8214 | 岡山市鉄160番地
TEL.086 (279) 1252 FAX.086 (278) 3798 |
| ・ 開 発 課 | 〒703-8214 | 岡山市鉄160番地
TEL.086 (279) 2791 FAX.086 (279) 6031 |
| ・ 塗装機器技術課 | 〒703-8214 | 岡山市鉄160番地
TEL.086 (279) 6201 FAX.086 (279) 2972 |
| ・ 圧縮機技術課 | 〒703-8214 | 岡山市鉄160番地
TEL.086 (279) 7745 FAX.086 (279) 6031 |

ホームページアドレス

<http://www.meijair.co.jp/>